

古き歩みを誇りに 新しい七尾へ

能登畠山家開統600年を迎えて

城山と七尾城跡

四季折々に、それぞれの彩りを見せ、訪れる人々を楽しませてくれる城山。

その城山に今から500年程前、戦国時代の大名として170年間能登国を治めた畠山氏の居城として七尾城が築かれた。

巨大な規模と要害を利用した築城技術は、国内でも屈指とされ、標高約300メートルの本丸跡からは、七尾湾や能登島、奥能登方面が一望でき、眼下には七尾市街地が広がる。

天正5年(1577)、9月15日に越後国の上杉謙信に攻められ落城するが、謙信は七尾城からの景色を見て、「聞きしに勝る名地で、賀越能(加賀・越中・能登)三方国金目の地形といい、要害は山海相応し、海や島々の風情も絵にも描け



本丸跡へと続く石段

ない景勝である。」と感動している。

昭和9年には、「七尾城跡」として国の史跡に指定され、現在は「日本名城百選」の一つに数えられている。さらに平成19年3月、「美しい日本の歴史的風土準100選」にも選定された。

能登畠山家と畠山文化

能登畠山氏は、満慶を初代として11代義隆まで歴史を刻んだ。今年は、満慶が能登畠山家を開統(※1)して600年の節目の年にあたる。

3代義統のとき初めて七尾に下り、7代義総の治世には、「能登畠山文化」と称される

文芸活動が七尾城下町で花開き、公卿、歌人、連歌師、禅僧などの京都の優れた文化人が相次いで訪れた。

義総は文人大名ともいわれ、香道御家流の流祖であり、古典研究の第一人者として知られた公家の三条西実隆(1455〜1537)に深く師事して、「源氏物語」「伊勢物語」「古今和歌集」などの研究に励んだ。

平成3年(1991)のシツケ遺跡(現デイサービスセンター)城山の里)発掘調査では、整然とした七尾城下町の遺構、天目茶碗・香炉など嗜みの遺物が発見され、能登畠山文化の水準の高さをうかがうことができた。



シッケ遺跡から発見された香炉

当時の様子を伝えているものに東福寺の禅僧による「独楽亭記」という漢詩文があり、それには七尾城と千門万戸と謳われた七尾城下町の繁栄の様子が紹介されている。



城山展望台から七尾市街地を望む

この時代には、桃山美術の巨匠長谷川等伯も輩出されている。

香りの記念日

シッケ遺跡をはじめとした七尾城下町の遺構で香炉が発見されたことで、能登畠山の時代からすでに香りというものが、庶民の生活に浸透していたことを知ることができた。現代においては、平成4年10月24日〜11月3日、第7回国民文化祭が石川県で開催され、七尾市では「世界の香りフェアIN能登」が催された。その中で、国民文化祭初の香りイベントが開催されたことを記念し、10月30日を「香り

の時代には、桃山美術の巨匠長谷川等伯も輩出されている。

香りの記念日

この地域は、古くから香りをはじめとする文化に非常に縁が深いことと、それらの遺産が現代においても息づいていることを感じることができた。祖先がつないできた文化の薫りをこれからも継承し、新しい文化の薫りを育んでいきたいものである。



国民文化祭での御家流香席 (資料写真：平成4年撮影)

記念日」として登録申請することが提案され、来場者からの賛同を得た。翌平成5年1月11日に日本記念日協会へ「香りの記念日」の登録を申請し、同2月1日に正式に承認されている。それ以来七尾市は、さまざまなかたちで「香りのあるまち七尾」を全国に発信し続け、まちづくりにも取り組んでいる。



参考資料：七尾市の文化財ほか

■能登畠山氏の時代

西暦	能登国のおもなできごと	シッケ遺跡の時代
1408	畠山満慶 能登畠山家を開統	
1467	第3代畠山義統応仁の乱、西軍に加わる	
1483	第3代畠山義統「賦何船連歌を作る」	
1526	第7代畠山義総七尾城中で歌会催す	
1539	長谷川等伯七尾に生まれる	
1555	弘治の内乱おこる	
1577	上杉謙信により七尾城が落とされ、能登畠山氏が滅亡する	
1581	織田信長、前田利家に能登国を任す	
1582	前田利家小丸山城を築く	
1583	前田利家金沢に入城	

※1 開統：はじめをひらく。王朝などの基を建てる場合にいうこと。(諸橋大漢和辞典より)